

平成 28 年度 社会福祉法人浄願寺福社会事業報告書

1. 法人本部

①理事会の開催

開催 期日	開 催 場 所	出席数	議 案
H28.5.21	別館ひまわり	9/9	①平成 27 年度浄願寺福社会事業報告の件 ②平成 27 年度浄願寺福社会決算報告の件 ③平成 27 年度浄願寺福社会監査報告の件 ④その他
H28.12.6	別館ひまわり	8/9	①平成 28 年度こども園会計第 1 次予算補正の件 ②浄願寺福社会給与規則一部改正の件 ③浄願寺福社会定款変更の件 ④平成 28 年度指導監査報告の件 ⑤平成 28 年度雇い入れ職員報告の件
H29.3.9	別館ひまわり	7/9	①浄願寺福社会評議員選任・解任委員会運営細則策定の件 ②浄願寺福社会評議員選任・解任委員選定の件 ③浄願寺福社会評議員選定の件 ④その他
H29.3.27	別館ひまわり	9/9	①平成 28 年度浄願寺福社会予算補正の件 ②平成 29 年度浄願寺福社会事業計画（案）の件 ③平成 29 年度浄願寺福社会予算（案）の件 ④幹部職員継続雇用の件 ⑤給与規則一部改正の件 ⑥浄願寺こども園定員変更の件 ⑦その他の件

②内部監査

平成 28 年 5 月 18 日（水）19 時 00 分より、監事 2 名により平成 27 年度分法人運営及び経理の監査を受けた。

平成 27 年度の社会福祉法人浄願寺福社会の事業報告、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等決算帳票については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正と認める。

指摘事項

貸借対照表の流動負債で、一年以内返済予定設備資金借入金の計上が資金収支計算書に反映されていないので、適正に処理を行うこと。

2. 事業

I. 浄願寺こども園

①園児数 定員 135名

月 年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳児	3	5	6	8	10	12	14	14	15	18	18	18	141
1.2歳児	48	48	48	49	49	50	51	51	51	51	52	53	601
3歳児	14	14	14	13	13	13	13	13	13	12	12	12	156
3歳児(1号)	10	10	10	11	11	11	11	11	11	13	13	13	135
4.5歳児	25	25	24	24	23	19	19	19	19	19	19	19	254
4.5歳児(1号)	16	16	17	17	17	21	22	22	22	22	22	22	236
計	116	118	119	122	123	126	130	130	131	135	136	137	1,523
保育教諭数	22	22	21	22	23	23	25	26	27	28	28	28	295

②事業の内容

平成28年度は、保育所施設から幼保連携型認定こども園に移行した初年度であった。当初は、3.4.5歳児の一号認定と二号認定の保育の分断などが懸念されたが、一号認定の預かり保育（午後3時以降）を基本とし、一日を通しての保育を考えるよう保護者の方にもお願いしたため保育内容は従前と変わらず行うことができた。

しかし事務処理の面からは、一号認定の登降園管理や利用サービスが日毎に一人ひとり別であるため、月締めの請求事務が煩雑となり、時間とマンパワーを要した。

利用者の動向としては、保育内容が変わらないこともあり、一号・二号の認定を料金の安い方で受ける傾向が強く、これには杵築市の一号認定保育料の定額設定が寄与していると考えられる。（基本額5,000円）また、認定こども園は、3歳児から母親が就労していなくても入園できることから、子どもの成長に合わせて集団活動を希望する家庭の要求に答えることができ、実際に入園の実績もあった。

経営的には、3歳以上児の一号認定の方が交付金額が高く設定されており、一号認定が多い方が有利である。また、認定こども園に移行することにより、学校教育の制度であるチーム保育教諭や学級編成担当保育教諭の加算が受けられることから、余裕のある人員配置が可能となり、人材の確保が重要な課題である。

③保育の内容

保育理念「共生・共育/信頼・尊敬/ゆとり・感謝」を掲げ、「共に生き・共に育ち合える」保育を願いとして、保育目標「ともに生き、ともに育ちあう保育の実践」、保育実践項目「①丈夫でしなやかな体の子ども・②友だちを思いやり、誰とでも関わりが持てる子ども・③みずみずしい感性豊かな子ども・④自分で考え、行動できる子ども」の4項目について、個々の心と体に即した成長発達を遂げるよう保育に取り組んだ。一人ひとりの子どもを大切に、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づきカリキュラムを立案、教育と保育を一体的に提供するよう、創意工夫し園児の心身の全面発達を目指し、季節に応じた保育を行うとともに、感性が豊かに育つよう自然に触れ合う体験活動を多く取り入れるよう心がけた。

また、子育て支援アンケートをとり、保護者の意向を取り入れながら「子どもの最善の私益」を考え保育するように心がけた。同時に保護者への子育てに対する情報提供や子育てについて考えてもらえるよう、クラス懇談会などで話し合いなどを重ねて保護者支援を行った。

さらに、教育委員会の要請で小学校との連携をとり、年長児から小学校へとスムーズに移行できるよう接続カリキュラム(アプローチカリキュラム)を作成し、保育を行った。

給食の方では、栄養士が保育教諭と連携し、園全体で野菜作り・調理保育・栄養指導などの食育の推進に取り組み、給食材料や献立を検討しながら、より安全でおいしい給食作りに心がけた。

また、アレルギーのある子どもに対して、保護者との連携を取りながらアレルギー源を除去した給食も提供した。

④特別保育事業

ア. 延長保育事業

最近の社会情勢から両親の就労状況はますます多様化し、延長保育を希望する家庭が増えてきた。親が安心して働けるよう子育てを支援するため午前7時から午後6時までの開所時間に加え、さらに2時間延長して保育を行った。その結果、残業等がある職場に勤務する家庭の保護者に対し、柔軟かつ不可欠な保育サービスを提供する事ができた。当園では、月曜日から土曜日まで概ね11名の延長保育を実施し、2人の保育教諭を充てた。

イ. 一時預かり事業

28年度の利用実績は238名であった。途中で保護者の就労により入園して減少傾向にあったが、「おおいた子育てホットクーポン+分」の利用で8月より急激に増えた。利用目的は、母親の短時間就労や資格の取得、買い物、歯科通院、習い事またはリフレッシュと幅広く、多様なニーズに応えることができた。また、在宅育児の母親が、利用目的として「同年齢の子どもたちと触れ合わせたい」「こども園でのびのびと体を使わせたい」などを挙げており、こども園が持つ子育て環境にも目が向けられている。同時に「すべての子どもに保育サービスを」という国の方針にも沿っており、子どもの健全育成にとって重要な事業である。

ウ. 一時預かり事業(幼稚園型)

28年度の利用実績は、平日5,894名、休日2,031名あり、1号認定の子どもに対して、保育に欠ける日においても教育・保育の提供をすることができた。

エ. 障がい児保育促進対策事業

当園は、心身に障がいを有する児童を受け入れ、他の児童と集団活動をともにする保育を行うことにより、障がい児の健全な育成と社会性を促進し、他の児童においても障がい児をとおして障がいの理解と偏見をなくすために事業実施した。

II. 放課後児童健全育成事業

当児童クラブ「風ん子ハウス」は、共働きの家庭の子どもに対し、学校の放課後や土曜休み、長期休暇期間を受け入れ、学校から帰ると宿題をし、その後友だちと体を動かして楽しく過ごし

ている。施設は、自然環境に恵まれ、広場も十分にあり、子どもたちの感性や創造性が養われるようカニ捕りや魚捕り、虫など生き物と触れ合い、菜園や花壇作りなど、さまざまな遊びや労働を経験するよう取り組んでいる。また、遠足や夏のキャンプ、こども園児との交流、スキー合宿など施設外活動や宿泊活動にも力を入れており、異年齢集団の中で上下関係や友だち作りを学び、連帯感や社会性が身につく、思いやりの心も育ってきている。さらに食事作りやおやつ作りを通して作る楽しさを味わい、食に関心を持つ子どもたちが増え、料理に対する自信につながっている。

28年度は、昔からの紙パッチン、紙風船、けん玉等伝承遊びを取り入れた。現代では体験することが少なくなった遊びに興味を持ち、工夫や思考が必要な遊びが持続し、ゆったりと和やかに遊ぶことができた。

当該年度の登録数は月平均 37 名で、共働きの保護者にとって必要な施設となっている。

Ⅲ. 子育て支援事業(平成 19 年 4 月 1 日開設)

28 年度利用実績

	育児相談	どんぐり広場	親	子	サークル回数
年実績数	13 回	243 回	722 人	1029 人	11 回

お母さんのくつろぎの場、親子の友だち作りの場、親子の触れ合いの場として活動しているが、それとともに、子どもの発達を保障する場でもありたいと願い、「給食試食会」「絵本・紙芝居の読み聞かせ」「こども園の園庭で遊ぼう」等で保育教諭の子どもへの接し方や園児の様子などを見て子育ての参考にしてほしいと思う。

メディアとの接触が多いと思われる子どもたちにとって、テレビのない部屋での遊びや、砂場・こども園の園庭での遊びを通して、心と体の育ちに望ましい環境を提供してきた。

28年度は、市内の大部分の保育園がこども園に移行し、一号認定子どもの3歳児入園が増加したため、どんぐり利用者の年齢層が下がった。そのため、活動内容が室内中心に限られたことが多かったが、ゆったりと過ごすことで、小さい子どもも安心して遊ぶことができた。子どもが安心して遊ぶことでお母さん自身も安心し、他の子どもたちにも関わろうとする姿が見られた。しかし、子どもと常に一緒にいることでストレスを感じているお母さんもいるので、相談を受けたり、一時預かり保育の紹介などもし、お母さん自身がリフレッシュして、子育てが楽しいと思えるように支援している。

当該年度は、スタッフが市のわんぱくサークルへ参加したことで、新しい利用者とのつながりも出来、後半は利用者も増えてきた。

月2回のクッキングでは、旬の食材を使っての料理や伝承料理を取り入れた。また、レシピを提供することにより、家庭でも作ってみようという声が聞かれた。

核家族化や少子化が進む中、また転勤で県外から来て友達のいない人にとって、支援センターという交流の場があることで母親同士、子ども同士のつながりが生まれていることは、重要な意義があると思う。

(補助金) 1. 県費補助金

①教育の質の向上のための緊急整備事業補助金 1, 000, 000円

②子育てホットクーポン補助金	73,000円
計	1,073,000円

2.市補助金

①延長保育事業補助金	1,548,000円
②一時預かり保育事業補助金	1,580,000円
③一時預かり保育事業(幼稚園型)補助金	2,250,000円
④障がい児保育促進対策事業補助金	360,000円
⑤保育所地域活動事業補助金	50,000円
⑥子育て支援団体連携加算	30,000円
合計	5,818,000円

(委託金) ①地域子育て支援事業委託金	6,000,000円
②放課後児童クラブ委託金	5,932,000円
合計	18,823,000円

3. 職員研修0

(1) 園内研修

- ①職員会議 保育現場の問題・課題を出し合い協議した。研修会の報告をするなど、職員間で情報を共有した。
- ②保育学習会 月一回、斎藤公子の著書を輪読し職員間で話し合った。
- ③自己評価会議 リーダーを中心に、一カ月を振り返り自らを評価しグループでの話し合いを持った。
- ④リーダー会議 自己評価会議の内容を園長・副園長・主幹保育教諭を交えてリーダーが報告し、情報や課題を共有した。
- ⑤週案会議 各クラスの主担が週毎の保育を評価・反省し、課題を見出し次週の計画を発表し、情報を共有した。
- ⑤実技学習会 歌を歌う会やリズムの講習会を行った。
- ⑥事例検討会 気になる子どものエピソードなどの事例を通して自己評価・見直しをし、学び合った。

(2) 園外研修

ア、県保育連合会・認可保育協議会主催の研修会に参加

園長研修会・主幹保育教諭研修会・リーダー的職員研修会・専門職員研修会Ⅰ・専門職員研修会Ⅱ・食育推進研修会・療育担当研修会・気になる子どもの対応研修会
九州保育三団体研究大会・乳児保育研修会・県保育事業大会・感性を育てる研修会・楽しい遊びの研修会
幼稚園教育課程大分県協議会

イ、真宗保育研修会に参加

仏教保育大学講座・大谷保育九州大会・全国真宗保育大会・保育心理士研修会

ウ、杵築市保育協議会主催の研修会に参加

園長研修会・主任・主幹研修会・職員研修会・調理師研修会・リーダー保育士研修会

エ、自主研修会

保育連合会主催自主研修会、三園交流自主研修会（歌う会）

4. 施設整備及び遊具の整備

① 大型木製遊具 がき大將其の参の設置（4,212,000 円 内 1,000,000 円は県費補助金）

② 大型遊具のメンテナンス（滑り台、FRP船型遊具）

5. 年間の主な行事

4月 入園式・クラス懇談会・健康診断(内科・歯科)

5月 春の遠足(農業文化公園)・おはなまつり

6月 保育参加・子育て講演会(講師 原陽一郎氏)・年長児三園交流お泊り保育(耶馬溪屋形
いなかの学校 2泊3日)

7月 年長児お泊り保育(香々地 1泊2日)・夕涼み会

8月 園内お泊り保育(学童・4・5歳児)・公開保育

9月 親子バス遠足(アフリカン・サファリ)・年長児三園交流お泊り保育(香々地青少年の家
2泊3日)

10月 運動会(東小学校グラウンド)

11月 健康診断(内科・歯科)・年長児三園交流お泊り保育(九重青少年の家 2泊3日) 年長児
久住山登山・クラス懇談会・消防訓練(消防署による)・年長児交流会(1日)

12月 子育て講演会(講師 広木克行氏)・お餅つき・報恩講のお参り・クラス懇談会

1月 スキー合宿(九重スキー場 2泊3日)・年長児交流会(1日)・クラス懇談会

2月 年長児三園交流お泊り保育(2泊3日)

3月 年長児交流会(1日)・お別れ遠足(夢公園・地獄地帯公園・地獄巡り)・子ども報恩
講・お別れ会・生活発表会・卒園式

以上